

「感じ」「動き」「かわる」…子どもも学校も、さらに一步前へ！



さくらの学校だより

平戸市立田平東小学校 学校だより 令和8年6月1日 文責：校長 森川 稔

一学期の折り返しです

今週から6月に入りました。早いもので、一学期も折り返しの時期を迎えます。4月の出会いから2か月。子どもたちは、新しい学年や学級での生活にも慣れ、日々の学びや活動の中で、自分らしさを発揮し始めています。校庭では、学校のシンボルであるくすのきの若葉が青々と茂り、子どもたちの成長を見守るように、さわやかな初夏の風に揺れています。



先日の運動会では、最後までやり抜こうとする姿や、友だちと力を合わせる姿、互いを応援し合う温かい姿をたくさん見ることができました。これからの学校生活では、その経験を土台にしながら、「落ち着いて学ぶ力」「相手を思いやる力」「自分をコントロールする力」など、毎日の積み重ねの中で育つ力をさらに伸ばしていきたいと考えています。

これから梅雨の時期を迎え、思うように外で活動できない日も増えてきます。そんな中でも、学校敷地内や通学路に咲く紫陽花の花々に目を向け、季節の移ろいを感じながら、心豊かに過ごしてほしいと思っています。6月は水泳学習も始まり、「東っ子の心を見つめる教育週間」など、季節や子どもたちの成長に応じた教育活動も予定されています。

一日一日の積み重ねを大切にしながら、子どもたちが安心して学び、成長できる学校づくりに努めてまいります。今月もどうぞよろしくお願いたします。



ミストシャワーを設置しました

自然を満喫してきました

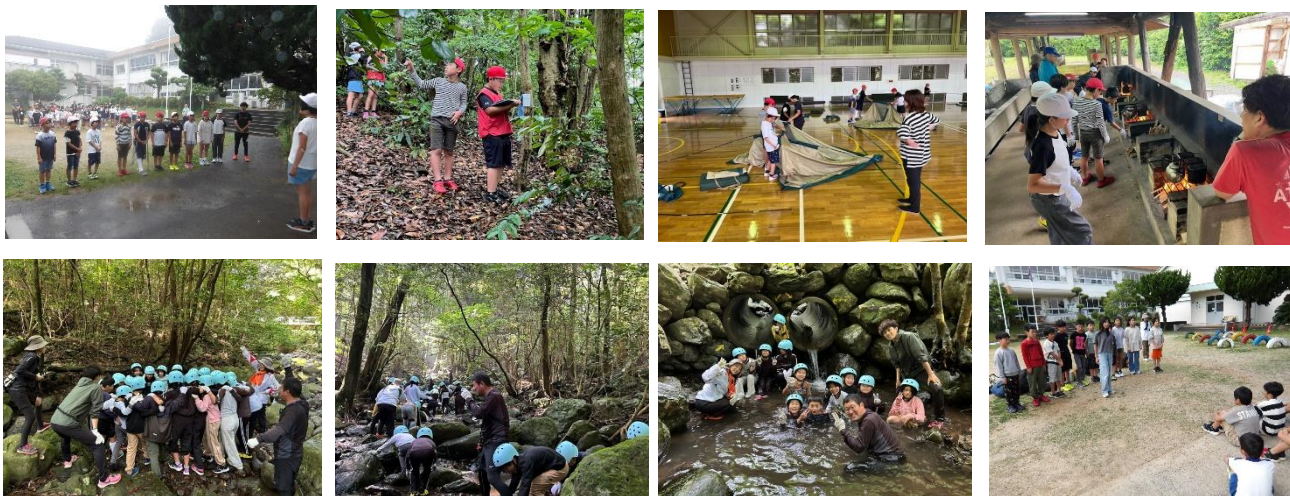
先号では、校外学習の様子をお伝えしましたが、先週28～29日にかけて、5年生は世知原少年自然の家に1泊2日で宿泊体験学習に行ってきました。今年度も田平南小と合同で実施しました。

事前学習をもとに、実際の活動の中では「自分で考えて行動する」ということで子どもたちに委ねる場面を多く設定しました。霧雨の中の出発式では在校生や先生方から見送られ元気に出発しました。自然の家に到着後は、指導員の先生から説明、指導していただいたことをもとに、森林グループワーク、テント設営、夕食のカレー作りで一日目の活動を楽しみました。

テントで熟睡した翌朝は、前日までと打って変わって快晴になり、朝の集いのあとは、子どもたちが楽しみにしていた沢登りをしました。前日までの雨で、ほどよく水量もあり、

絶好のコンディションの中みんなで円陣を組んでスタートしました。冷たい水とマイナスイオンの中、途中疲れて登るのをあきらめかけた場面もありましたが、友だちの声かけもあって、全員無事にゴールすることができました。

いろいろなハプニングもありましたが、二日間のすべての活動をとおして、学級の絆が強くなり、南小のみなさんとの親睦を深めることができ、充実した行事となりました。



気になる行動のその先に

前述のように、6月に入り、子どもたちの日々の学びも少しずつ深まってきています。その一方で、授業中に姿勢を保つことが難しかったり、45分間落ち着いて学ぶことが難しかったりする姿も見られます。また、写真のように、校内の壁紙(シート)が剥がされている場面に出会うこともあり、とても残念な気持ちになります。

もちろん、「学校の物を大切に使う」ことは大前提です。しかし、私たちが大切にしたいのは、「だれがしたのか」を追及することだけではありません。その行動の向こう側に、どんな気持ちや思いがあったのか、子どもたちは今どのような心の状態なのかをていねいに見取ることです。

子どもたちの行動には、必ず理由があります。言葉にできない不安、うまくいかないもどかしさ、誰かに分かってほしいという思いが、別の形となって表れることもあります。だからこそ、大人が一方的に叱るだけではなく、「何があったのかな」「困っていることはないかな」と心に寄り添う視点を忘れてはならないと感じています。

問題が起きてから注意するだけの“対処療法”ではなく、安心して過ごせる学級づくりや、一人一人が認められる関係づくりといった“プロアクティブ(先行的・予防的)な関わり”を、これからも学校全体で大切にしていきたいと考えています。



田平東小HPはこちらから→

